

### Ⅲ 略年表

## 昭和57年度

- 4月1日 市古貞次館長退官、小山弘志教授館長に就任、棚町知弥教授研究情報部長に就任  
　　〃 山田昭全氏（大正大学文学部教授）客員教授に就任（58年3月31日まで）  
　　〃 連歌資料のコンピュータ処理の研究開始
- 5 21 共同利用研究所長懇談会、当館で開催  
25～26 国文学文献資料調査員会議（26日は地区代表のみ）
- 6 1 久松国男氏より故久松潜一氏所蔵本第二次分の寄託を受ける  
12 第16回公開講演会（福岡市国際ホール）
- 7 1 ウィリアム・H・マッカラウ氏（カリフォルニア大学バークレイ校教授）外国人研究員  
（客員教授）に就任（テーマ 平安時代の文学と歴史 12月31日まで）
- 8 1 運営協議員制度発足 第一期発令  
8 伊井春樹助教授、在外研究員としてアメリカ・イギリス・フランスへ出張（10月2日まで）
- 9 2～4 第5回夏期公開講演会 テーマ「日本の歌謡」  
2～8 第11回特別展示「新収資料展」（『特別展示目録7』刊行）
- 9月 史料館研究紀要第14号刊行（以下、第20号まで毎年度9月刊行、第21号から毎年度末刊行）
- 10 18～22 第28回近世史料取扱講習会（当館）  
29 創立十周年記念式典・祝賀会（『十年の歩み』配布）  
29～11.13 創立十周年記念第12回特別展示（『特別展示図録』刊行）  
30 創立十周年記念公開講演会（中村真一郎氏、金子金治郎氏）
- 11 8 オロフ・G・リディン氏（コペンハーゲン大学教授）外国人研究員（客員教授）に就任（テーマ 荻生徂徠の研究 58年2月7日まで）  
10～13 第6回国際日本文学研究集会 特別講演ケネス・B・ガードナー氏（英国図書館副部長）、  
ドナルド・キーン氏（コロンビア大学教授）
- （昭和58年）
- 1月31日 共同研究報告2『酒田市立光丘文庫俳書解題』明治書院より刊行
- 1月 「昭和三十七年以前研究文献目録」編集のために研究情報部に臨時編集室を設置
- 3 31 『国文学研究資料館紀要第9号』・『国文学研究資料館講演集4「日本の歌謡」（夏期公開講演会の記録）』・『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録』・『国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録』・『国文学研究資料館蔵和古書目録増加1』・『史料館所蔵史料目録』刊行（以下、毎年度末に継続して刊行）

## 昭和58年度

- 4月1日 井上宗雄氏（立教大学文学部教授）客員教授に就任（59年3月31日まで）
- 15 キンヤ・ツルタ氏（ブリティッシュ・コロンビア大学教授）外国人研究員（客員教授）に就任  
（テーマ 日本文学における「向こう側」の発想 9月14日まで）
- 5 26 国文学文献資料調査員会議
- 6 11 第18回公開講演会
- 7 14 利用登録者数10,000人に達する
- 21～23 第6回夏期公開講演会 テーマ「日記と文学」
- 8 1 岡雅彦助教授、文部省在外研究員として大英図書館・ハーバード大学に出張（9月30日まで）
- 9 13 文献資料部教官3名（長谷川強、渡邊守邦、伊井春樹）及び日野龍夫氏（京大）、科研費により出張、カリフォルニア大学バークレイ校所蔵旧三井文庫本3,516点を調査（10月15日まで）
- 10 3～7 第29回近世史料取扱講習会（京都府立総合資料館）
- 17～21 同上（当館）
- 22 第19回公開講演会（仙台市・読売ホール）
- 11 1～15 第13回特別展示「中世歌論書展—久松家寄託資料—」（『特別展示目録8』刊行）
- 5 コンピュータ HITAC M-260Dに機種更新。システム第二期に入り、データベース構築と研究支援システム実現化開始
- 11～12 第7回国際日本文学研究集会
- 12 3 内藤衛亮助教授、国際オンライン情報会議（ロンドン）に出席のため出張（12月10日まで）  
（昭和59年）
- 2月27日 共同研究委員会において、昭和60年度から公募の方法による共同研究の実施に向けての準備開始を決定
- 3 31 『国文学研究文献目録—昭和16年～昭和37年—』刊行

昭和59年度

- 4月1日 池田利夫氏（鶴見大学文学部教授）客員教授に就任（60年3月31日まで）  
    〃    5年計画で古典作品典拠ファイル作成事業発足
- 5 22 国文学文献資料調査員会議（総会）
- 6 9 第20回公開講演会
- 7 15 ハワード・S・ヒベット氏（ハーバード大学教授）外国人研究員（客員教授）に就任  
    （テーマ 江戸文学におけるユーモア 60年1月14日まで）
- 26 国文学文献資料調査員中国・四国地区会議（今治市）〔地区会議復活〕
- 26～28 第7回夏期公開講演会 テーマ「日本文学と中国文学」
- 8 1 安藤正人助手、短期在外研究員としてイギリス・フランス・西ドイツ・アメリカに出張  
    （9月30日まで）
- 9 共同研究公募開始（昭和60年度から）を決定
- 10 1～5 第30回近世史料取扱講習会（京都府立総合資料館）  
    15～19 同 上 （当館）
- 23 長谷川強教授、カリフォルニア大学バークレイ校に旧三井文庫調査のため科研費により出張  
    （11月2日まで）
- 27 第21回公開講演会（名古屋市・長円寺会館ホール）
- 11 1～15 第14回特別展示「蔵書印展」（『特別展示図録』刊行）  
    9～10 第8回国際日本文学研究集会
- 11 安永尚志助教授、ユネスコ・インフォーマティックス暫定政府間理事会に出席のため出張  
    （11月25日まで）
- 16 国文学文献資料調査員近畿地区会議（大阪市）  
（昭和60年）
- 1月30日 共同研究委員会、昭和60年度分公募により4件採択
- 2 26 文献資料部4教官（福田秀一、田嶋一夫、新藤協三、島原泰雄）、台湾大学図書館に科研費により出張 旧台北帝大本 1,020点調査（3月11日まで）
- 3 30 共同研究報告3『連歌資料のコンピュータ処理の研究』明治書院より刊行
- 31 小泉武管理部長退官

## 昭和60年度

- 4月1日 桜井金也管理部長に就任
- 雲英末雄氏（早稲田大学文学部教授）客員教授に就任（62年3月31日まで）
  - 今年度より客員助教授を前期（4～9月）後期（10～3月）各1名と改める
  - 情報検索委員会を改組し、情報処理システム運用委員会を設置
  - マイクロ資料目録データベースオンライン検索、館外利用者試行開始
- 5 15 百川敬仁助教授、プリティッシュ・コロンビア大学に在外研究員として出張（昭和61年5月14日まで）
- 21 国文学文献資料調査員会議
- 6 8 第22回公開講演会
- 29 共同研究報告4『文学における「向う側」』明治書院より刊行
- 7 1 保存用ネガフィルムの外部保管委託開始
- 11 松字文庫本（俳書）を当館に搬入して調査開始
- 18 市古貞次、鈴木舜、古川清彦、松田修の各氏に名誉教授の称号を授与
- 25～27 第8回夏期公開講演会 テーマ「近世の日記・記録」
- 8 1 資料利用規程一部改正（資料利用等に関する整備）
- 15 森安彦教授、第16回国際歴史学会（シュツットガルト）に出席のため出張（9月2日まで）
- 9 18 小山弘志館長、第4回ヨーロッパ日本研究会議に出席のため出張（10月1日まで）
- 23 岡雅彦助教授、カリフォルニア大学バークレイ校の旧三井文庫本調査のため出張（61年9月22日まで）
- 26 安澤秀一教授、文書館国際評議会（フローレンス）等に出席のため出張（10月13日まで）
- 9月 下旬より10月中旬にかけて文献資料部教官5名（新藤協三・小峯和明・母利司朗・福田秀一・長谷川強）及び鈴木孝庸氏（新潟大）、井上敏幸氏（福岡女子大）が、日程をずらして各人2週間程度、科研費により台湾大学図書館に出張 旧台北帝大本1,232点調査
- 10 7 フリッツ・フォス氏（ライデン大学名誉教授）外国人研究員（客員教授）に就任（テーマ 落窪物語の研究 61年3月31日まで）
- 14～18 第31回近世史料取扱講習会（京都府立総合資料館）
- 26 第23回公開講演会（金沢市・石川県社会福祉会館）
- 28～11.1 第31回近世史料取扱講習会（当館）
- 11 1～15 第15回特別展示「新収資料展－昭和57～59年度期－」（『特別展示目録9』刊行）
- 8～9 第9回国際日本文学研究集会
- 15 国文学文献資料調査員九州地区会議（熊本市）
- （昭和61年）
- 1月9日 データベースのオンラインサービスのため、データベースサービス準備室設置
- 2 20 国文学文献資料調査員北海道・東北地区会議（仙台市）
- 3 1 武者小路公久氏より武者小路家資料6点の寄託を受ける

## 昭和61年度

- 4月1日 長谷川強教授文献資料部長に就任  
　　〃 本年度から、情報処理システムJIS外字の選定・作成は情報処理室に代わって情報処理システム専門委員会の文字審査会が行う
- 5 20 国文学文献資料調査員会議
- 6 7 第24回公開講演会
- 15 安永尚志教授、第1回東南アジア地域インフォーマティックス企画会議（インドネシア）に出席のため出張（6月20日まで）
- 26 安藤正人助手、ロンドン大学図書館文書館情報学大学院に留学（62年7月16日まで）
- 7 24～26 第9回夏期公開講演会 テーマ「軍記物語の展開」
- 8 23 堀浩一助教授、第11回計算言語学国際会議での研究発表のため出張（9月9日まで）
- 9 12 安永尚志教授、世界コンピュータ会議に出席のため出張（9月23日まで）
- 15 マコト・ウエダ氏（スタンフォード大学教授）外国人研究員（客員教授）に就任（テーマ 日本文学における作品終結の論理 62年3月14日まで）
- 29～10.3 第32回近世史料取扱講習会（京都府立総合資料館）
- 10 13～17 同 上 （当館）
- 18 第25回公開講演会（松山市・子規記念博物館）
- 19 安永尚志教授、インフォーマティックス政府間会議（フランス）等に出席のため出張（10月30日まで）
- 11 1～15 第16回特別展示「古今集—初雁文庫本を中心として—」（『特別展示目録10』刊行）
- 7 国文学文献資料調査員中部地区会議（金沢市）
- 13～15 第10回国際日本文学研究集会 シンポジウム「日本文学史について」加藤周一氏、ドナルド・キーン氏、小西甚一氏、芳賀徹氏（司会） 公開講演 マコト・ウエダ氏、ジャン・ジャック・オリガス氏
- 21 国文学文献資料調査員中国・四国地区会議（広島市）
- （昭和62年）
- 1月8日 福田秀一教授、日本文学研究のためハンガリー等に出張（8月31日まで）
- 21 田嶋一夫助教授、日本語処理に関する講演のため中国科学院に出張（1月30日まで）
- 3 25 「国文学年鑑」（昭60版）CTSによる初めての組版。学会展望を廃止

## 昭和62年度

- 4月1日 有吉保氏（日本大学文理学部教授）客員教授に就任（63年3月31日まで）
- ♪ データベース（マイクロ資料目録・和古書目録）オンライン検索サービス開始
  - ♪ データベースサービス準備室をデータベースサービス室に改組
  - ♪ データベースサービス委員会設置
- 25 60～61年度当館に搬入しての松宇文庫本（2,661点）の調査・収集が完了し、講談社に返却
- 5 28 国文学文献資料調査員会議
- 6 13 第26回公開講演会
- 7 1 安永尚志教授、短期在外研究員としてアメリカ・イギリスに出張（8月31日まで）
- 10 ローラント・シュナイダー氏（ハンブルグ大学教授）外国人研究員（客員教授）に就任（テーマ 七十一番職人歌合の研究 12月9日まで）
- 23～25 第10回夏期公開講演会 テーマ「本の話」
- 8 1 岡雅彦助教授、カリフォルニア大学バークレイ校へ旧三井文庫本の調査のため出張  
(9月30日まで)
- 19 小峯和明助教授と田嶋一夫氏（いわき明星大）、科研費によりイェール大学・プリンストン大学に予備調査のため出張（9月8日まで）
- 9 19 カリフォルニア大学バークレイ校より旧三井文庫本のフィルム76点届く
- 10 5～9 第33回近世史料取扱講習会（大阪府公文書館）
- 19～23 同上（当館）
- 23 国文学文献資料調査員北海道・東北地区会議（酒田市）
- 24 第27回公開講演会（松江市・島根県民会館）
- 11 2～14 第17回特別展示「絵巻・絵本ならびに版本の挿絵」（『特別展示目録11』刊行）
- 6～7 第11回国際日本文学研究集会
- 24 国文学文献資料調査員近畿地区会議（京都市）
- 30～12.4 「文書館学」研修会（試行的実施）
- 12 21 コンピュータ HITAC M-660Hに機種更新（三代目） 主記憶容量32メガバイト  
(昭和63年)
- 1月14日 長井壽生氏より故長井永太郎氏旧蔵の万葉集関係の資料719点の寄贈を受ける
- 3 31 前文献資料部長福田秀一教授転出（国際基督教大学へ）



## 平成元年度

- 4月1日 山中光一教授研究情報部長に就任  
　　◇ 大曾根章介氏（中央大学文学部教授）客員教授に就任（2年3月31日まで）
- 5 5 ジャクリヌ・ピジョー氏（パリ第7大学教授）外国人研究員（客員教授）に就任（テーマお伽草子の研究 9月4日まで）
- 5 30 国文学文献資料調査員会議
- 6 1 論文目録データベースのオンラインサービスのため、論文目録データベースサービス準備室設置  
24 第30回公開講演会  
28 国立学校設置法の一部改正により、国立大学共同利用機関を大学共同利用機関と名称変更
- 7 10 棚町知弥、渡邊守邦の両氏に名誉教授の称号を授与  
　　◇ 史料管理学研修会長期研修課程前期開催（8月4日まで。後期は9月4日～29日） 本年度より期間拡大（長期研修課程前・後期各4週間、短期課程2週間）  
22 松方純助教授、情報検索システムに関する調査のためアメリカへ出張（7月30日まで）  
27～29 第12回夏期公開講演会 テーマ「近世演劇－歌舞伎と人形浄瑠璃－」
- 8 20 文献資料部教官3名（小峯和明、山崎誠、竹下義人）及び田嶋一夫氏（いわき明星大）、科研費によりイェール大学・アメリカ議会図書館に調査のため出張（9月5日まで）  
24 当館を含む文部省関係4機関の移転候補地が立川に決定
- 9 3 安藤正人助手、第2回アーキヴィスト養成国際シンポジウム等に出席のためイタリアに出張（9月12日まで）
- 10 20 国文学文献資料調査員中部地区会議（名古屋市）  
21 第31回公開講演会（札幌市・北海道大学学術交流会館）  
22 関根俊雄氏より関根正直草稿他77点の寄贈を受ける  
27 国文学文献資料調査員北海道・東北地区会議（秋田市）
- 11 1～15 第18回特別展示「新収資料展－昭和60～62年度期－」（『特別展示目録12』刊行）  
6～17 史料管理学研修会〔短期〕（福岡ガーデンパレス）  
10～12 第13回国際日本文学研究集会  
（平成2年）
- 1月11日 当館情報システム、学術情報ネットワークに加入（接続試験完了）
- 2 20 第1回国文学とコンピュータシンポジウム  
26 「古典籍総合目録」上巻（中・下巻は3月26日）岩波書店より刊行
- 3 29 共同研究報告7「終わりの美学」ウエダ・山中編 明治書院より刊行  
31 山中光一研究情報部長退官

## 平成 2 年 度

- 4月1日 大嶋浩管理部長転出、吉池孝道管理部長に就任、新井栄蔵教授研究情報部長に就任
- ✧ ウィリアム・ラフルーア氏（カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授）外国人研究員（客員教授）に就任（テーマ 西行の研究 8月31日まで）
  - ✧ 宮次男氏（実践女子大学文学部教授）客員教授に就任（3年3月31日まで）
  - ✧ 研究情報研究専門員規程制定
- 5 14 本田康雄整理閲覧部長及び歌野整理係長、図書館業務など視察のため、イギリス・オランダ・西ドイツ・フランスに出張
- 29 国文学文献資料調査員会議
- 6 8 研究情報部及び整理閲覧部の組織整備  
研究情報部、情報資料室（旧情報室）・情報分析室（旧編集室）・データベース室（新設）・情報処理室の4室〔実験講座となる〕  
整理閲覧部、情報サービス室（旧整理閲覧室）の名称変更〔事務系室長の配置〕
- 23 第32回公開講演会
- 7 2 文献資料部、特定研究「古典籍学の確立体系化のための研究」に着手（5年計画）
- 9 史料管理学研修会長期研修課程前期開催（8月3日まで。後期は9月3日～28日）
- 11 山中光一、安澤秀一の両氏に名誉教授の称号を授与
- 26～28 第13回夏期公開講演会 テーマ「上代の文学」
- 9 8 安藤正人助教授、第3回アーキヴィスト養成国際シンポジウム等に出席ため、オランダに出張（9月14日まで）
- 24 文献資料部教官2名（長谷川強・小峯和明）、科研費により資料調査のためフランスに出張（9月30日まで）
- 10 19 国文学文献資料調査員近畿地区会議（京都市）
- 27 第33回公開講演会（大阪市・大阪府中小企業文化会館）
- 11 5～16 史料管理学研修会〔短期〕（岡山県青年館）
- 15 国文学文献資料調査員九州地区会議（福岡市）
- 16～17 第14回国際日本文学研究集会
- 12 14 第2回国文学とコンピュータシンポジウム  
（平成3年）
- 3月1日 小山弘志館長及び文献資料部教官4名（岡雅彦、新藤協三、小峯和明、樹下文隆）、科研費により資料調査のためフランス・アイルランドに出張（3月10日まで）
- 15 安永尚志教授（3月25日まで）及び北村啓子助手（3月28日まで）、コンピュータ人文科学・文学言語合同国際会議等に出席のためアメリカに出張
- 31 長谷川強文献資料部長退官

## 平成3年度

- 4月1日 松野陽一教授文献資料部長に就任
- ㄨ 富士昭雄氏（駒澤大学文学部教授）客員教授に就任（4年3月31日まで）
  - ㄨ 徳川宗賢氏ほか5氏より田安德川家資料823点（4,092冊、43軸）の寄託を受ける
- 25 吉川孔敏氏より広瀬淡窓・青邨関係資料135点の寄贈を受ける
- 5 9 論文目録データベースの評価のため、モニターに北大など7大学を配置
- 23 国文学文献資料調査員会議
- 6 22 第34回公開講演会
- 30 吉池孝道管理部長退官
- 7 1 六車正章管理部長に就任
- ㄨ 岡雅彦教授、ハーバード大学エンチン図書館蔵本調査と目録作成のためアメリカへ出張  
(9月30日まで)
- 8 史料管理学研修会長期研修課程前期開催（8月3日まで。後期は9月2日～28日）
- 9 チェスタービーティ図書館潮田淑子氏来館 9月の調査について打ち合わせる
- 10 長谷川強氏に名誉教授の称号を授与
- 25～27 第14回夏期公開講演会 テーマ「江戸から東京へー継承と創造ー」
- 9 8 森安彦教授、アジア地域アーキビスト養成国際シンポジウム（北京）に出席のため出張  
(9月14日まで)
- 10 山本幸子氏より山本金蔵旧蔵（故長谷川如是閑愛蔵）の古筆切・色紙類26点の寄贈を受ける
- 23 文献資料部教官5名（小峯和明、山崎誠、竹下義人、樹下文隆、深澤真二）及び宮次男氏（実践女子大）、佐藤悟氏（実践女子大）、科研費によりリヨン図書館（フランス）・チェスタービーティ図書館（アイルランド）に調査のため出張（10月9日まで）
- 10 26 第35回公開講演会（山形大学教育学部）
- 11 1～15 第19回特別展示「新収資料展（昭和63年～平成2年度期）」（『特別展示目録13』刊行）
- 2 第1回国文学データベース研究集会
- 5 ジャンージャック・オリガス氏（フランス国立東洋言語文化研究所教授）外国人研究員（客員教授）に就任（テーマ 明治後期の随筆文学の研究 4年5月4日まで）
- 8～9 第15回国際日本文学研究集会
- 11～22 史料管理学研修会〔短期〕（KKR札幌）
- 19 国文学文献資料調査員中国・四国地区会議（徳島市）
- 22 国文学文献資料調査員中部地区会議（金沢市）
- 30 『史料館の歩み四十年』刊行
- 12 7 史料館四十周年記念祝賀会
- 13 第3回国文学とコンピュータシンポジウム

(平成4年)

3月10日 創立二十周年記念事業委員会発足

31 論文目録データベースサービス準備室任務終了

3月 科研費(平成2～3)報告書「国文学研究論文に見られる研究語彙の調査研究」刊行

## 平成 4 年 度

- 4 月 1 日 国文学論文目録データベースのオンライン検索サービス開始
  - ＊ 江本裕氏（大妻女子大学文学部教授）客員教授に就任（5年3月31日まで）
- 4 10 研究情報部に研究開発室（客員研究室）設置
- 5 1 国家公務員完全週休二日制導入 当館土曜日閉館 それに伴い平日の閲覧時間延長（国文学関係午前9時～午後5時 史料館関係午前9時30分～午後5時）
- 6 1 藤原鎮男氏（神奈川大学知識情報研究所長）研究情報部研究開発室の初代客員教授に就任
- 6 2 国文学文献資料調査員会議 年間調査予定110箇所となる
- 6 20 第36回公開講演会
- 7 6 史料管理学研修会長期研修課程前期開催（8月1日まで。後期は8月31日～9月26日）
- 7 29～31 第15回夏期公開講演会 テーマ「国文学研究－資料と情報－」
- 9 5 安藤助教授、アメリカ記録史料科学者協会第56回年次大会等に出席のためカナダ・アメリカへ出張（9月27日まで）
- 10 2 第2回国文学データベース研究集会

## あ　と　が　き

二十周年記念誌を編集するに当たって、われわれは次のような基本方針で臨んだ。即ち、第11年（昭和57年度）から第20年（平成3年度）までの資料集の作成を中心とし、「十年の歩み」の場合のような館外の方からの祝辞や寄稿、座談会などは載せないという方針である。これは、十周年が基礎固めから事業の本格的な活動に入りかけたときであり、資料館創設の意義や将来への展望など、盛沢山にアイデンティティの確認を要する段階であったのに対し、今回は、事業面でも（無論新たな発展の芽をもつものの）基本的には恒常化していることでもあり、地道な活動の記録を確実にとどめておくということに重点を置きたいと考えたからである。これは、親委員会である二十周年記念事業委員会が、記念事業はなるべく簡素にという方針を立てた考え方に沿うものでもあった。

といっても、この第二期の10年も当然のことながら最初の10年と連続した年月であり、継続した事業の遂行は、未来を展望しつつ営まれていることはいままでもない。そこで、各部館ごとにこの10年の事業の概要を執筆するに際して、当初の10年に必ず触れるほか、将来への展望にも及ぶこととした。また、資料自体も20年分を集積した方が利用に便宜があると判断される分については、「十年の歩み」との重複をいとわぬこととした。従ってタイトルも、この10年間の資料集を中心的な性格としながら『国文学研究資料館の20年』の名告りを敢てしたのである。

地道に国文学や近世史学に関する資料と情報を集積し整理して利用に供するという点では、確かに恒常的な業務にわれわれは従事している。が、その一方で、実は各部館とも新分野の開拓に対する努力を続けている。館内外の研究者が協力して行う共同研究の公募を始めたことや、各種のデータベースのオンラインサービスの開始などは、この10年間に実現を見た新事業の一端である。移転問題などの外的要因を含めて、近未来に起こることの予測される変化は小さくないであろう。その変化になるべく適切に対応するためにも、この20年の歴史を、館員自身が不断に見返して行くべきであることは論を俟たない。本誌がいささかでもその手掛かりとなり、また広く一般の方々の眼に触れて批判や提言がいただければ、編纂担当者としてこれにまさる喜びはない。

短時日のうちに完成する必要があったため、原稿執筆・資料提供など各部館にはかなり無理を願うこととなった。また、管理部、特に庶務課には資料整理・原稿のとりまとめと、点検・浄書とに格別の努力を傾注してもらった。関係各位に心からの謝意を表したい。

平成4年10月

編集委員会	松野 陽一（委員長）
	新藤 協三（文献資料部）
	武井 協三（研究情報部）
	佐伯 眞一（整理閲覧部）
	安藤 正人（史料館）